

3月8日・9日コンファレンス報告

杉崎 京太

(津田塾大学学芸学部教授、EUSI 顧問)

2015年3月8日、9日、千駄ヶ谷津田ホールで国際コンファレンス、“Responding to Challenges for the Euro-zone: Resilience of Europe and New Perspective of the EU Studies”を開催しました。この会議は、昨今、マスコミをにぎわす「ギリシア危機」をはじめとする「欧州危機」について、ヨーロッパの第一線で活躍する研究者をお招きし、日本の研究者とともにその実態と今後の可能性について議論することを目的としたものでした。メディアによって繰り返される「欧州危機論」に対して、繰り返される「欧州の危機」に際して、その「復元力」が奈辺にあるのか、その源泉について検討することで、『新しい EU 学の展望』(仮題)といったテキストの製作に結びつけようというものでした。

9日の国際会議は、近代から現代に至る国際金融史を扱って、この分野での世界的な大家、Cassis 氏を EUI からお招きました。特別講演“Europe’s Crisis in the Early Twenty-First Century: A Historical Perspective”は、歴史的観点から今日の危機と今後の方向性を考える重要性、特に通貨同盟と政治的同盟の関連についての問題提起がなされました。

第一部“New Challenges for the Euro-Zone Today”では、今日的状況の分析を行いました。ベルギーのシンクタンク・ブリューゲルで活躍中の Darvas 氏による“Economic Outlook and Policies in Europe: Old and New Growth Problems Coupled with Lack of Cohesion”は、詳細かつ広範な現状分析で、欧州統合の現段階との関連で多くの問題提起がなされ、川崎健太郎氏(東洋大学)の討論とあわせて、今後の研究の課題を提示するものとなりました。

ギリシアからお招きした Tsakloglou 氏は“The Greek Debt Crisis and its Aftermath”において、パパンドレウ政権時の経済諮問委員会の要職にあった経験も含めて、ギリシアの今日的状況について論じ、特に頭脳流出を含め漏出がもたらす経済効果について問題提起を行い、これに対して神江沙蘭氏(関西大学)はギリシアにおける構造改革の進捗状況について論点を提示しました。

午後の第二部“Varieties of Economies and Their Resilience”では、EU内の経済の多様性という観点から、アイルランドとドイツについて検討しました。

アイルランドでジャン・モネ・チェアの Bernadette Andreosso-O Callaghan 氏は、“Post-Global Financial Crisis Ireland: A Model of Economic Recovery?”で、アイルランドの経済再建の今日的状況をアイルランド経済の独自性とともに論じ、これに対して Rene Duignan 氏(EU 代表部)との間で論争がありました。

ドイツについては、ドイツ経済史の重鎮 Bühner 氏が、“Crisis! What Crisis? The ‘German Model’ facing economic and financial challenges since the 1990s”と題した挑戦的な問題提起を行い、ドイツモデルの連続性と断続性について、網谷龍介氏(津田塾大学)との間で論戦がありました。

第三部“Social Cohesion and its Resilience in Europe: Economic, Political and Social Dimensions”は、VU University Amsterdam の名誉教授 Overbeek 氏の問題提起“Europe at Crossroads: Is Austerity Destroying the

EU or Can It Revitalise It?”をもとにパネル・ディスカッションを行いました。悲観論と楽観論の間で、活発な意見が交わされ、ヨーロッパにおける民主主義の可能性と、通貨同盟を財政同盟、政治同盟に変えていく可能性についての論点が提示されました。

この9日の国際会議に先だって行われた8日の予備会議では、戸澤英典氏(東北大学)による“Richard Coudenhove-Kalergi and Japan: A Brief History”と、石見徹氏(東京大学名誉教授)による“International Monetary System Revisited 20 years later”の特別講演が行われ、そのあと招待者との間で和やかな意見交換が行われました。

プログラムと写真などを含めた報告は、ウェブ上で見ることができます。

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/2015-3-8-9/>

<http://eusi.jp/en/outreach/outreach-report/repoat-politics/8-9-mar-2015/>

会議の豊富な内容に比して、聴衆の少なかつたことは誠に残念でしたし、このメルマガの間では、紙幅が限られており、細かい論点についてご報告はできないのも残念です。しかし、こうした議論については、今後のテキスト作成のなかで生かしていくことができると思います。